



# 森のなかま

2017年1月号

NO. 105 (継続250号)

事務所が移転しています!!

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

## 『今年、成長と飛躍のスタートに』

＜理事長 久保 重明＞

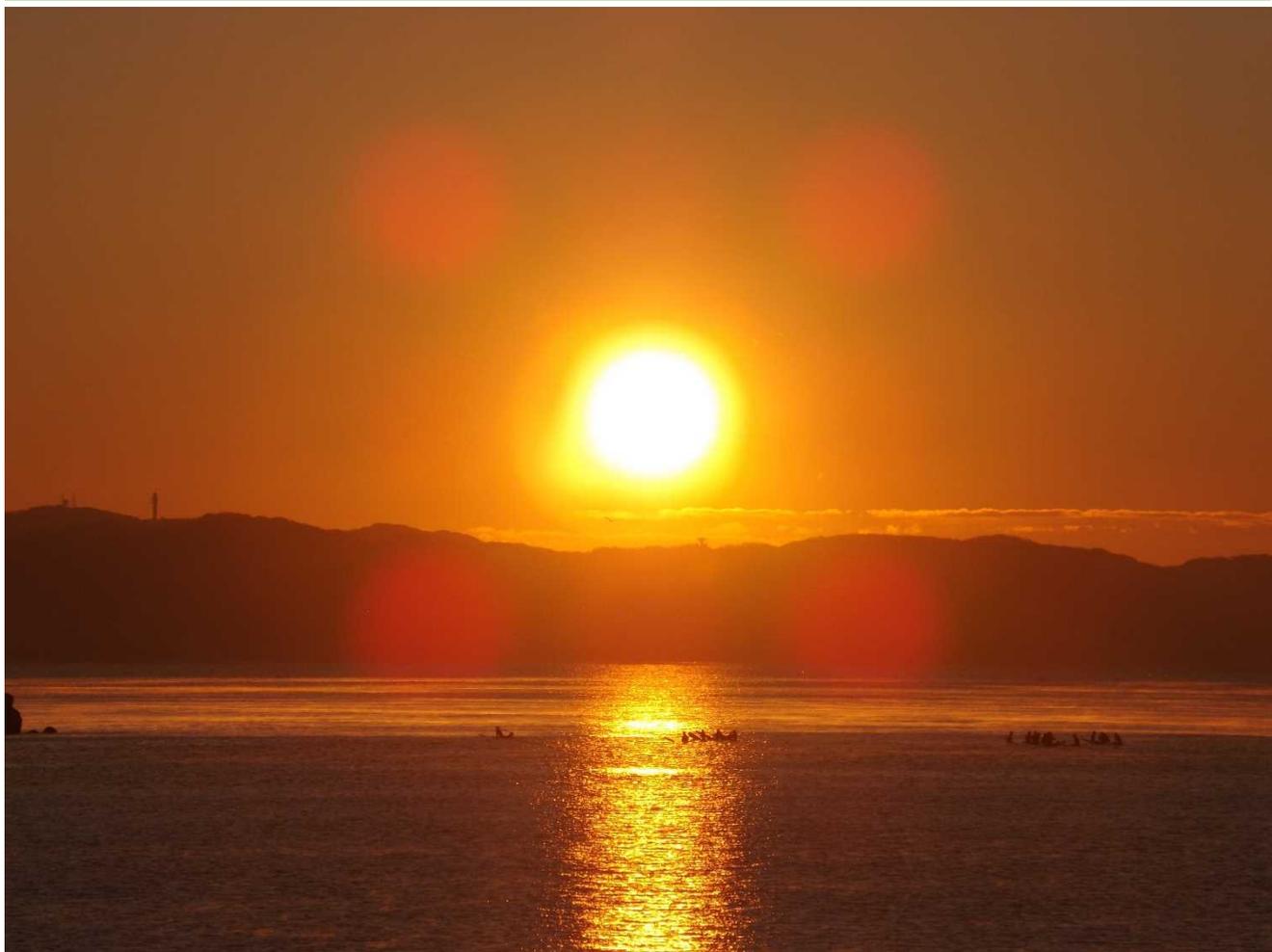
皆様におかれましては、よいお正月をお迎えのことと思います。毎年増える活動依頼に対応して頂きまして有難うございます。昨年は、国内外共にいろいろなことが矢継ぎ早に起こり気を揉む1年でした。

昨年4月には「森林インストラクター認定要綱」が一部改訂され、活動範囲が森林、林業から緑地まで広がり、知識や熱意は勿論、さらなる技術のレベルアップが強く求められています。また会としてはライブラリー創設し、技術ライブラリー、活動記録のアーカイブなど含まれ、これまで積上げたものを残し利用できるようにします。

昨年度で特記されたことは、初めて「丹沢大山自然再生委員会」の普及啓発で森林探訪を共催で実施しました。今後、会が調査研究で参加していくことが望まれます。

会は平成28年度通常総会でご説明申し上げましたように単年度赤字に陥りました。繰越金もあり、今すぐ切迫状態だった訳ではありませんが、この機に事業企画委員会の中にオープンな財政健全化委員会を立ち上げ、今後の発展も含め聖域なしの議論を交わしました。その結果、詰めるべき項目が明らかになり担当を決め、フォローすることにしました。皆様には早い機会にご説明し、ご助言・ご指導を頂き、行動に移すことに致します。

2017年は会の成長と飛躍を促し、さらなる発展に心を一にして頑張ってください。



(江の島より三浦半島からの日の出を見る(昨年(2016)の元旦))

自然観察部会 第86回森林探訪 **深秋の岳の台「ヤビツ峠周辺の登山道を歩こう」**

(公財) かながわトラストみどり財団共催

11月20日 (日) 8:00 ~ 15:30 参加者: 63名

コース: 秦野駅 → (バス) → ヤビツ峠 ⇒ 岳の台 ⇒ 菩提峠 ⇒ ヤビツ峠 ⇒ 蓑毛

< 松石 藤夫 13期 > (写真提供: 内野⑨、小林⑩、松石⑬)

今回は、比較的ポピュラーなハイキングコースですが、ゆっくり歩いて深みゆく秋を満喫していただくという企画の森林探訪です。”落ち葉と冬芽“を主テーマにインストラクターがそれぞれに工夫した説明をしてお客様を案内しました。

秦野駅バス乗り場での登山者の混雑を考慮して、受付はヤビツ峠でおこないましたが、全員定刻にヤビツ峠に集合出来ました。受付、班毎のオリエンテーションと準備体操を済ませてスタートです。スタートから30分は登りが続きますが、素晴らしい快晴の天候に恵まれて参加者の皆さんの足取りは快調でした。

その後は、開けた萱場、また、人口林と自然林が道の両側で対比できる山道などを抜けて岳の台の山頂に至りました。岳の台山頂ではマユミの裂果を鮮やかな色で観ることがました。



さあ スタートです



人工林&自然林 得意の説明に熱がこもります



山頂で一休み



富士山観えた？  
(岳の台見晴台)



おっとと・・・飛び出さないで(パラグライダー滑走台)

ほぼ予定の時間にパラグライダーの滑走台を経て、菩提峠で昼食。滑走台からは、箱根、相模湾が一望できて、まさに空を飛んでいる様に錯覚しそうです。



柏木林道 <木馬道 (きんまみち)>



花が残って  
(リュウノウギク)



実もあり  
(ミヤマイボタ)



冬芽は膨らんで  
(クロモジ)

秋の楽しみ

菩提峠からヤビツ峠に戻り、柏木林道を通って蓑毛まで下ります。柏木林道は、昔の“木馬道”(きんまみち)で、多くの材木がこの道を経て搬出されたと説明を受けて、林業の歴史にも話題が広がっているようでした。予定通りの時刻に全員無事で蓑毛に着き、アンケートを提出してもらい、解散しました。参加者の皆さんにはいい秋を満喫して頂けたと思います。

今年度の最後の森林探訪でしたが、年間4回の実施で、延べ160名の方に参加して頂きました。来年度も更に多くの皆さんに参加して頂ける様な企画が出来ると良いと思います。

(公財)トラストみどり財団: 南橋様 看護師: 青木様

担当インストラクター: CL小林⑩、野田⑧、小川⑬、松石⑬ インストラクター: 内野⑨、松永⑪、上宮田⑪、赤崎⑫、小池⑫、長尾⑬、西岡⑭

(公財)トラストみどり財団主催 平成28年度第3回ブラッシュアップ研修

**「間伐作業(選木・伐採・整理)」**

日時: 平成28年11月5日(土)8:50~9:10 天気: 晴れ

場所: 湯河原町鍛冶屋 湯河原町林日本触媒万葉の森



## &lt; 水野 安則 14期 &gt;

ブラッシュアップ研修「間伐作業(選木・伐採・整理)」に参加しました。ほぼ予定通り9時に湯河原駅を出発。雲ひとつない快晴の中、県道75号湯河原箱根仙石原線(椿ライン)をドライブし、「しとどの窟」から白銀林道に入り、研修場所の「日本触媒万葉の森」に予定より少し早い9時30分に到着しました。

## 研修スケジュール

8:45~9:00 受付 JR湯河原駅前 9:10~10:00 借上げバスで移動

10:00~10:20 オリエンテーション10:20~14:30 講義・実技(昼食含む)

14:30~15:00 研修講評 15:10~16:00 借上げバスにて移動、解散



集合場所は、  
肥後實平公夫妻が待つ湯河原駅前

スタッフ並びに講師の(有)巻上造林メンバーの紹介並びに挨拶の後、3班に分かれ、急勾配の坂を約15分登り、研修場所のヒノキ林に到着しました。

始めに(有)巻上造林社長より選木についての説明を全員で受講しました。昭和50年頃に枝打ちした木は、ヨキ(手斧)で鋭く枝の根元をえぐるように切る指導があったため、切り口周辺の樹皮が浮きやすくまた、幹に傷がつくことがあり、「シミ」、「クサレ」が多く発生しているとの事。

社長が選木した木を注意深く観察すると、過去に枝打ちした下側が凹んで、脂が出ているのが確認されました。このような木は、生育が劣る木や、曲がり、二又になった木と同様に間伐の対象となります。

しかし、曲がり、二又の木でも、4.1m以上真っ直ぐな部分があれば商品価値は有り、根曲がり(根元から1mぐらい)の木でも、昔は、ミカン・リンゴ箱として利用し、捨てる部分は少なかったとの事。また、枯れ枝をつけたままや、切った木を放置しておく、標高800m以下の場所では、アカネトラカミキリ等の住みかになりやすく、虫害を受けた材木は、商品価値を下げるので、整理整頓が重要であるとの事。その後、伐倒のデモンストレーションをして、各班に分かれ間伐の研修を行いました。



巻上社長より  
選木の説明を受ける研修生



伐倒のデモンストレーションを  
熱心に見入る研修生

- ①選木:既にマーキングされていましたが、樹勢が劣る劣勢木を選定。
- ②伐倒方向: 木の重心方向、隣り合う木の梢の間隔を観察し、倒す方向を決める。
- ③退避場所の確認と足元の整理整頓。
- ④ロープ掛け:効果を上げるため、伐倒木の高い位置に取り付ける。
- ⑤受け口:基本通り、水平切りは、直径の1/3~1/4、斜め切りは、30~45度を目標で試みるが……
- ⑥追口:基本通り、受け口の2/3の高さで、ツルは、1/10を残す目標で試みるが……
- ⑦木を倒す:木が密集していたため枝掛かりが発生し、ロープを使い倒しました。
- ⑧伐倒後の確認:伐根を観察(受口の方向、深さ、形状、追口の高さ、水平度、ツルの幅)、反省会を実施
- ⑧枝払い、玉切り、整理:玉切りした材の設置に立木を利用すると立木が「シミ」になる原因となるとの事。

研修は、伐倒の本数を重ねるごとにスムーズに進み、各班 4本前後の伐倒をしました。



受口の出来栄を確認し合う研修生



伐根の受口、追口、ツルの状態を確認し、次回へ反映



伐倒後に見上げると、眩しい青空が見えました

最後に、講師の方よりお褒めと激励の言葉を頂き、全員無事怪我もなく研修は、終了しました。

巻上社長の「人へ教える立場のインストラクターの皆さんは、森づくりは、地拵え→植樹→下刈り→枝打ち→伐採のサイクルで成り立っていることを理解し、安全(声を出して指先呼称)に心がけ、これからも森を守って下さい」の言葉が心に沁みました。

また、枝打ち部分、滑車をスリングに取り付ける方法等、プロの技との違いを知り、これからの活動で、より説得力がある説明を参加者にできるような気がしました。

講師：(有)巻上造林 巻上社長、中山氏、樋田氏 スタッフ財団：豊丸課長、内田様、 研修生： 31名  
 1班：巻上社長 友谷①、大道⑥、有坂⑧、飯澤⑨、大澤⑩、徳岡⑪、松本⑪、下山⑫、北村⑬、武井⑬、水野⑭  
 2班：中山氏 山崎⑦、三浦⑧、辻村⑨、後藤⑩、真貝⑪、東⑫、安井⑫、斉藤⑬、宇田川⑬、鈴木⑭  
 3班：樋田氏 佐藤⑤、千葉⑦、水津⑨、宮下⑩、松永⑪、石川⑫、江上⑬、古舘⑬、岩田⑭、谷⑭



### “第3回やどりき周辺と近隣の山歩き” 【栗の木洞ダイレクトコース】

平成28年11月23日(水・祝) 曇り(尚、翌日11/24は雪でした) 参加者:10名 (写真撮影&キャプション:飯澤⑨)

今回は管理棟から後沢出合に行き新定着活動で使用している作業道を三段橋の上部まで登り、そこから昨年度新たに出来た作業道を登って、ボランティア林Aの作業道に合流して1000m地点の登山道に出る。そこから登山道を後沢乗越経由栗の木洞まで辿り再び作業道を一気に下って管理棟に出ました。

●コース：管理棟→後沢出合→後沢三段橋上部→後沢分岐→1000m 地点→  
 後沢乗越(800m)→栗ノ木洞頂上(908.3m)→キリンパートナー林作業道→管理棟

林道コースの紅葉を眺め



三段橋を渡り



急坂を登って



鹿柵を潜り抜けて



●参加者：  
 滝澤⑤(リーダー)  
 武者⑦、辻村⑤、  
 福島⑤、橋本⑩、  
 大橋⑩、石川⑫、  
 門澤⑫、谷⑭、  
 吉岡⑭、飯澤⑨



山頂で全員で記念撮影

ゴールも近い



登山道に出たらこの賑わい



## 活動短信

今回の掲載は平成28年10/22～10/29です。  
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。



無料イラストより



**霜始降** 10/23～10/27頃  
しもはじめてふる  
霜が初めて降りる  
第五十二候 霜降 初候

**曇時施** 10/28～11/1頃  
こさめときどきふる  
小雨がばらばらと降る  
第五十三候 霜降 次候

## ◆ 三菱倉庫株式会社

## 森林再生パートナー森林活動 間伐・自然観察

**日** 平成28年10月22日(土)、曇り

**場** 山北町世附字日影山

**参** 27名

**県** 星様

**イ** L 村井⑨、齋藤⑥、伊藤⑦、上田⑩、真部⑬

天気が心配であったが、予定通り活動を無事終わらせることができました。開会式の後間伐班と自然観察班に分かれての活動でゆっくりと、この世附の初秋の雰囲気を味わっていただいたものと思われま

## 間伐

間伐班は15名で3班に別れ、事前に選木されている木の周りに立ち森とその木を眺めながら間伐の意味と、どのように安全に伐倒するか説明を聞きながら自分たちで、伐倒方向を決め手順に従って作業を進めていった。基本的に忠実に作業をした結果、予定した伐倒方向にほぼ正確に倒すことができた。掛かり木もなくダイナミックに倒れてゆく杉の木を見て作業を終わらせた満足感と、森林整備作業の大変さを実感されたと思います。

切株の形状を確認して、ツルの役割と大切さを説明したのち、枝落とし玉切りをして間伐体験は終わりました。

(記 上田 啓二 ⑩)

## 自然観察

曇り空ではあったがひんやりとした心地よい空気の中、世附川に沿って上流へと向かう源五郎沢林道を散策した。花は少なく紅葉にも早い時期ではあるが、秋の実りの豊かさに迎えられたようだった。

今日の見どころは壁一面のマタタビ。葉の白斑は緑に戻りつつあったが、見事な実をたくさんつけていた。切ってみるとまさしく小型のキウイフルーツ。まだ青く、熟した実の甘

さを味わえなかったのが残念だった。そのほか真っ赤な実がびっしりついたガマズミも見応えがあり、甘酸っぱさを味わうことができた。クマシデ、ヤマノイモ、ハダカホオズキなどの種を確認したり、山のサンゴを拾い、最後はスギの燃える匂いで終了。

人工林の様子や手入れ不足の箇所を見られてよかったという感想もあった。緑に囲まれた景色とともに、秋の森を五感で楽しむことができたように思う。

(記 真部 幸枝 ⑬)

## ◆ 逗子市立沼間小学校 高取山登山(林間学校)

**日** 平成28年10月24日(月)9:15～14:00、晴れ

**場** 愛川ふれあいの村から高取山

**参** 小学5年生53名 教師4名(カメラマン1名)

**イ** L 村井⑨、小沢⑨、牧石⑭、西岡⑭

晴天が続いた後で道の滑りやすいところが少なく、かつ晴天の秋らしい日という条件もよく、気持ち良い登山ができた。高取山の頂上展望台では宮ヶ瀬湖、丹沢の山々、町が雲無く見え、360度の展望に感動していた。

マツとスギ、ホオノキの葉については覚えてもらうようにし、また、自然林と人工林の違い、健全な山とは、鹿柵の目的などを中心に、カンアオイ、コウヤボウキ等出会った花や実についても説明し、興味をもって聞いてもらえた。

休憩時に生徒が見つけたヤマビルについても説明した。なお、ヤマビルの被害はなかった。

初めての登山という生徒が多く、これが自然に親しむきっかけの一つになってくれればうれしい。

下山後の先生からの話の登山と安全についての部分で、滑りやすい所をシャベルで整備したこと、通る道の選定など事前の準備への感謝の言葉をいただいた。

(記 西岡 一郎 ⑭)

## ◆ 三菱重工業株式会社

## 長竹分収林での間伐作業(新入社員)

**日** 平成28年10月26日(水)13:30～16:00、晴れ

**場** 相模原市緑区 長竹分収林

**参** 23名(男性20名 女性3名)

**県** 星様、大西様

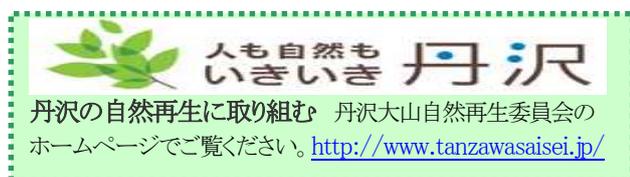
**イ** L 上田⑩、伊藤⑦、小沢⑨、高橋⑨、立花⑭

今朝、富士山初冠雪、山梨气象台が発表。しかしお天気は夏日予報が出ており朝から暖かい。

12時30分長竹分収林入り口に到着、昼食を摂り、作業の打ち合わせ後道具類を班別にセットする。13時30分バス到着、林道入口付近で開会式。

三菱重工様の挨拶、県の星様の挨拶とパートナー活動について話をいただき、本日の活動リーダーから間伐の必要性和安全作業について説明があった。準備体操を済ませて班別で(各班4名体制)道具を携行し現場へ向かった。選木された木の前で改めて間伐の意味と作業方法などを話し伐木作業に入る。はじめは手間取っていたが、鋸挽きになれると作業が進み伐倒ができた。枝払いを行い玉切りして整理した。残り時間を利用してコースター造りを楽しみお土産として下山する。集合場所に戻り道具の点検・清掃して返納した。気温が高く汗をかいたが、全員怪我、事故無く、道具の破損もなく無事終わることができました。閉会式を行い全員で記念写真を撮り16時15分にバスを見送る。道具類の数量を確認して県に返納し、反省会を行なったのち現場を後にした。

(記 立花 康美 ⑭)



#### ◆ 横浜市立西富岡小学校 林業体験(間伐)

日 平成28年10月27日(木)10:15~13:00、晴れ後曇

場 小田原市久野水源林

参 小学5年生 2クラス 59名、教師7名

財 古舘様

イ L久保⑧、伊藤⑦、小野⑦、内野⑨、

小沢⑨、村井⑨、牧石⑭

活動場所の久野水源林は山に雲がかかった天候の中、林業体験活動を実施。1班10名体制の6班に分かれ間伐体験活動の予定でしたが、活動場所が狭いため3班ごとに交代し実施。待機中の班は地主様のご好意でミカン狩りをさせていただける事になり、参加者全員、間伐体験活動+ミカン狩りを実施しました。ミカン狩り後、間伐までの待機時間を活用し班毎に林業についてのレクチャーを実施。活動場所は、木が密集した状態でどの方向に倒しても木がかりが発生する場所での間伐でしたが、木がかり発生時は慎重に処理を行いました。間伐後は玉切りした、間伐

材でコースターを作成。昼食時は、ミカン狩りでもいだミカンを笑顔で食べている子供、作成したコースターを見て笑顔を見せている子供たちが印象的でした。最後に子供たちより、今日体験した活動を今後、学んでいく授業の中で生かしていきたいとの言葉と、ありがとうございました、のお礼の言葉をいただき、予定通り終了しました。

(記 牧石 稔 ⑭)



#### ◆ 相模原市立津久井中央小学校 林業体験(間伐)

日 平成28年10月27日(木)9:00~13:30、快晴

場 相模原市緑区澤井 大日野原周辺

参 小学5年生1クラス19名 教師4名 計23名

スタッフ やませみ職員4名

イ L佐藤⑤、富樫⑥

事前授業によって間伐の意義や安全作業の進め方、森林の働きなどを説明する機会があったので、間伐作業への関心も高く、間伐作業については「きつかったけど楽しかった、みんなで力を合わせて倒せたので良かった」等の感想があった。相模原市のふるさと自然体験教室(ふじの体験の森やませみ)の施設から徒歩で15分歩いた場所での間伐作業、午前中の2時間を使って2班に分かれて胸高直径≒17cm、樹高およそ16mのヒノキを各班1本ずつ伐倒、枝払い、玉切り、コースター作りを行った。小学生には太くてかなりの重労働と思われたが、交代で鋸を使っていくうちに段々とうまくなっていくことが、楽しさを増していったようだ。間伐材の有効利用のため、薪にする1.5mに玉切りした材を森の入口まで運んで作業を終了、近くの原っぱで昼食をすませ、やませみに戻って班毎にグループミーティング(体験のまとめ、質疑応答)を行い、13:30ほぼ予定通り活動を終えた。

(記 佐藤 武晴 ⑤)

#### ◆ 横浜市市初音が丘小学校

環境・エネルギー学校派遣事業~かながわ環境教室~

「木がためこんでいる二酸化炭素の量を測ろう」

日 平成28年10月28日(金)、雨

**場** 横浜市保土ヶ谷区藤塚町1-1

**参** 初音が丘小学校森林クラブ 4~6年 40名 教師3名

**イ** L足立④、井出①、堀江④、加藤⑫、

15クラブ(運動、和太鼓他)ある活動の中から森林クラブの活動として、学校内に植わっている樹木のCO2の測定をいたしました。今回は混成学年クラブ活動という初の試みでした。全体説明(2:30PM)を行い、その後A~F班に別れ雨の中樹木尺を持ち校舎周り合計50本の測定を実施いたしました。開校52年を経て樹木種(ヒマヤスギ、ソメイヨシノ、マテバシイ、その他)は多様でした。教室に戻りPCへの測定結果を順次入力し、TVに自動計算された集計結果が反映されました。結果は、総CO2年間吸収量=6,426kg、一本当たりのCO2年間吸収量=129kg、学校のCO2総年間排出量(電気、LPガス、灯油、水道含む)=123,476kgで樹木が吸収する割合は、5.2%でした。最後に生徒感想発表に移り■木の大きさにより二酸化炭素の吸収量が異なること■二酸化炭素量を数値で表したことに感心でしたとお礼の挨拶を受けました(3:30PM)。

(記 加藤 久雄 ⑫)

◆ 県民参加の森づくり (枝打ち)

**日** 平成28年10月29日(土) 8:40~14:30、曇り時々雨

**場** 枝打ち:秦野市堀山下(全国植樹祭地)、

見学:県森林組合連合会林業センター秦野市菖蒲

**参** 38名

**財** 内田様 靱山様 **看** 小林様

他関係者:秦野市 中村課長

**林業センター** 力石様 服部様

**イ** L松本⑪、辻村⑨、堀江④、横田⑨、足立④、

宮下⑩、吉村⑦、大橋⑪、山崎⑦ 研修生:斉藤⑬

インストラクター及びスタッフは、朝7時50分に秦野駅南口に集合し、事前ミーティングのあと、参加者を案内し、班毎に2台のバスに分乗した。雨っぽい影響で若干参加者が減ったが、予定どおり実施されました。

作業場所は全国植樹祭(2010年)植樹地で11期インストラクターのデビュー場所でした。対象木は小花粉ヒノキで太さD/高さHは成長の度合いがバラバラでD3~8cm/H1.5~4mでした。募集人員より少ない参加者で初心者もいましたが、切れないノコギリにもかかわらず、いつも参加の常連さんの頑張りですべて予定よりも早く作業は終了しました。皆様から“物足りない“の声が多く上がっていました。

ひつつきムシ(種)のヌスビトハギがたくさん衣服や靴下につき作業後にとるのに四苦八苦していました。ヤマビル被害は2名いましたが、この場所ではいつもに比べると少なかったのでは。

午後は神奈川県森林組合連合会林業センターの見学をしました。県内唯一の原木市場で・木材共販部門・販売



部門・加工部門の3部門があります。間伐材の取り扱いについても教えて頂きましたが、その中でスギノアカネトラカミキリ等の被害木が多い事が気になりました。また、杭等で見かける丸太加工剤が積み重なっていて、ここで加工されている事がわかりました。各所でどんどん使われる事を願います。

(記 松本 保 ⑪)

投稿概略フォーマットと略語の説明

ページレイアウトは気にされずベタ書きで結構です。

◆ 活動団体・活動名 等

**日** 日付 (できれば時間と天気も)

**場** 場所

**参** 参加者&人数

**県** 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

**財**(公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

**スタッフ** 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

**イ** インストラクター (○数字:期) **研**: 研修枠  
以下本文

(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)

\*\*活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。\*\*



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

森のめぐみの掲載は、今月号はありません。次掲載は2月号です。

森のめぐみ シリーズ

### やどりき水源林 ミニガイド

#### 12月のトピックス

来年(平成29年)の山の神祭の準備。鳥居の注連縄の取り付け



(h28.12/18 撮影)

#### 1月の水源林

やどりきは冬の真ただ中。1/15には山の神祭が開かれます。

#### 「森の案内人」情報

(12月、1月、2月は休みです)

- 実施時間:毎週土曜・日曜・AM10時・PM1時, 1~2時間程度
- 集合:水源林入口ゲート前
- 内容:森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- \*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ:(公財)かながわトラス みどり財団 TEL:045-412-2255 FAX:045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
- E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)
- やどりき水源林までの道順  
小田急線新松田駅またはJR御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35~40分。  
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

### イベント情報 & ご案内

日本最大級の  
ロウバイ園  
松田町寄  
第6回  
ロウバイまつり  
1月14日(土)~2月12日(日)  
お問合せ先 松田町役場観光経済課  
電話番号:0465-83-1228  
<https://town.matsuda.kanagawa.jp/site/6roubai/>

#### ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・読者の皆様から広く原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>  
松本 保

Mail: [matsutamori@jcom.zaq.ne.jp](mailto:matsutamori@jcom.zaq.ne.jp)

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

Mail: [s\\_akasaki-k\\_instructor@live.jp](mailto:s_akasaki-k_instructor@live.jp)

Tel: 090-6150-6173

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: [matsutamori@jcom.zaq.ne.jp](mailto:matsutamori@jcom.zaq.ne.jp)

【別冊】水口 俊則

〒250-0871 小田原市下堀123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: [minagold109@kjd.biglobe.ne.jp](mailto:minagold109@kjd.biglobe.ne.jp)

【別冊はCCを】福島 正治(事務局長)

〒214-0006

川崎市多摩区菅仙谷3-1-1-204

Tel/Fax: 044-944-9423

Mail: [fukky52000@yahoo.co.jp](mailto:fukky52000@yahoo.co.jp)

原稿は随時受付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。  
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>  
(HP担当: 井出恒夫)

#### 編集後記

★大掃除でずいぶん持ち物を整理したら、心機一転、来年も頑張る気持ちが湧いてきました。

(赤崎)

★我が家のベランダで育てている「春蘭」が初めて二つの蕾を付けたんです。嬉しい~!

(小川)

★年の始めの決意、三日坊主で終わらないように頑張ります!!

(水口)

★クリスマスが近づいて来ました。我家では20年前からイルミネーションの飾付をしています。年々飾付をする家が少なくなりましたが、今年は3軒ほど増えました。嬉しい限りです。

(蘭田)

★寄大橋の塗装工事がほぼ完了しています。とても鮮やかな色になっています。私も新鮮さを肖りたいです。



(H28.12.18 撮影 松本)

#### 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛までご寄附2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 松本 保

事務局: 福島 正治

広報部: 水口俊則 赤崎さほり

小川和恵 蘭田栄哉

大塚晴子 小池 哉

支援 伊藤恭造 大原正志

江頭淑子



#### 神奈川県立生命の星・地球博物館

期間: 12/17(土)~2017年2/26(日)

神奈川県には、本小松石や根府川石、七沢石など、南関東に普及した石材や、風祭石やかま石など、産地の周辺で身近に使われた石材など、様々な石材があります。本展では、石材の地質学的な背景を紹介するとともに、その石材で造られた石造物などもあわせて紹介します。



#### 謹賀新年

山麓のオアシス

こまち

小田急 新松田駅 踏み切り際

緑の募金箱協力店